



クリエイト・プロでは日本の技術が生み出したハイブリッド自動車や電気自動車にも試乗

# 目指せ、中小



中谷さんの講義では、次々と質問が飛んだ



ブロックを使ったワークショップで、カイゼンの仕組みを体験。講師はヨルダンでシニア海外ボランティアとして品質管理を指導した家木幸一さん(右)

「電気自動車のカーシェアリングは、使用後に故障がないか人の手で点検しなければならぬため、人件費がかさみます。普及に向けて、無人でも異常がないかなど安全を点検できるシステムを開発しているところですよ」と、同社の代表取締役社長、神尾弘哉さんは説明する。

中小企業にとって、新しい事業に向けた資金確保は大きな課題の一つ。そこで日本では国や地方自治体、

な考え方です。講義でそう解説してくれたのは、約30年間トヨタで働き、ベトナムで経営管理のシニア海外ボランティアとして活動した経験もある中谷英司さんだ。「管理者から末端にいる現場の一人一人までが常に『カイゼン』を考えるようにと、日々の仕事の中で徹底的に教え込まれます。私は今でもレストランに行くとき、こうしたお客様さんが動きやすいのにと、無意識に現場の効率を考えてしまってますよ」と笑いながら教えてくれた。

次に向かったのは、小牧市の株式会社クリエイト・プロ。自動車に使われる電子機器の検査装置などを製造する中小企業で、電気自動車など最先端技術の研究開発にも力を入れている。

## 発展の力を握る 中小企業のカギ

「電気自動車のカーシェアリングは、使用後に故障がないか人の手で点検しなければならぬため、人件費がかさみます。普及に向けて、無人でも異常がないかなど安全を点検できるシステムを開発しているところですよ」と、同社の代表取締役社長、神尾弘哉さんは説明する。

省庁などがさまざまな中小企業振興策を打ち出している。同社も、経済産業省中部経済産業局からの補助金を得て、この研究開発に取り組んでいるのだ。



# 企業のレベルアップ

日本の経済成長を支えてきたものづくり。その最先端を走り続ける愛知県が、地元の中小企業の力を強化するノウハウを世界に発信している。

## 愛知県



クリエイト・プロの神尾社長から新システムの開発についての説明を受け、真剣なまなざしを向けるヨルダンの研修員たち



### 愛知県

面積5,163km<sup>2</sup>。人口約741万5,000人。県庁所在地は名古屋市。大手自動車メーカーのトヨタに代表されるように製造業が盛ん。ブラジルをはじめ外国人労働者が多く、多文化共生社会の実現に力を入れる。2013年には「あいち国際戦略プラン」を策定。アジアの活力を互いの発展に生かそうと、ベトナムや中国と経済連携協定を結ぶなど、国際交流にも積極的に取り組む。

### 成功は一人一人の改善から

「SF映画みたい！」  
火花を散らしながら自動車の車体を溶接するロボットが目まぐるしく動いている。ここは愛知県が世界に誇る企業、トヨタの自動車生産工場だ。その先の工程では、塗装された車体に部品が一つ一つ、人の手で取り付けられていく。ゆっくりと車体が運ばれるラインに沿って、各工程でスタッフが手際よく作業を進める。現場に置かれているのは必要最低限の部品と工具だけ。そんな無駄を省いた効率的な仕組みに、驚きの声が上がった。

「作業スペースがきちんと整理整頓されていて、私たちの国の工場とはまったく違います」  
そう目を丸くして見学しているのは、ヨルダンで中小企業振興を担当する行政官たち。約3週間の研修で日本を訪れている。ヨルダンの民間企業は98%が中小企業で、日本とほぼ同じ割合。中小企業が力をつけ、産業を発展させてきた日本の経験を学び、ヨルダンの経済成長に生かしたい」と、産業貿易省のアタラ・アライヤドさんは話す。